

2024.08 ラオス渡航記録

2024年8月26日から9月3日まで日本放射線技術学会が令和4年度より実施している厚生労働省（実施機関：国立研究開発法人国立国際医療研究センター）の医療技術等国際展開推進事業「ラオスにおける放射線医療機器の品質・安全管理技術の向上を目的とした技術研修」に本学 診療放射線科学科の4名（4年 大塚美優，4年 菊田奈央，3年 渡邊弥生，3年 長谷部和也）が参加しました。



ホテルのロビー全スペースを借りて、翌日に使用するセミナー資料の準備を行いました。初めてお会いする先生方も多い中、自ら声掛けを行い、テキパキと準備を進めていました。

活動 1 日目

宿泊していたホテルからセミナー会場は徒歩 20 分程ですが、ラオスは雨季のため、残念ながら景色を楽しみながら…とはいかず、足元の悪い中徒歩移動しました。



ラオスの雰囲気や空気感を味わう間もなく、朝 8 時半からセミナーの準備に取り掛かり、会場準備やセミナーの記録撮影など手分けして行いました。大きな講堂を借りて、のべ 70 名の参加者が集まりました。



ところで、ラオスでは、大学生も制服です。洋服選び困らなくて良いですね。

2024.08 ラオス渡航記録

午前のセッション参加者全員と記念撮影。緑色のチームポロシャツを着ているのがラオスプロジェクトのメンバーです。



ラオスの活動で良く利用しているレストランをお願いしたランチボックス。数種類準備してくれましたが、二人が食べたのはパッタイと野菜炒めでしょうか？表情を見ると、どうやら美味しく食べているように見えますが、実際にはどうだったのでしょうか。



午後のセッションでは iPad を用いた CT 画像のウィンドウ（WL/WW）設定の演習を行いました。言葉が通じなくても、身振り手振りで操作方法を教えてあげていました。ちなみに、菊田さんと渡辺さんはこのセミナーの 2 時間前にラオスに到着したばかりでしたが、疲れた顔も見せずよく頑張ってくれました。



2024.08 ラオス渡航記録

午後のセッション参加者全員と記念撮影。参加者の皆さんには、うちわ型の修了証が渡されました。



会場の片づけを終え、ホテルへ戻るところです。朝はあいにくの雨でしたが、セミナー終了後は晴天に恵まれ、周りの景色も楽しめました。
軽い足取りで歩く姿はまるでラオス版アビーロードでした。



実はこれが最初で最後のチーム福島医大の集合写真です。



目の前でラオスの伝統音楽や踊りが楽しめるレストランで、初日のお疲れ様会。店内には至る所に著名人の写真が飾られており、皇室関係の方々も利用されるレストランのようです。そんな話をすると超高級店だと思われてしまいますが、とってもリーズナブルです。ラオスの食文化はベトナム、タイ、中国の影響を受けています。何に一番近いかと問われるとタイ料理かもしれません。パクチーや辛い物にも挑戦し、東南アジアの食を堪能していました。



活動2日目

ラオスの首都ビエンチャンにあるミッタパープ病院での技術研修です。この病院には、ラオス国内唯一の放射線治療センターがあります。参加した学生は、それぞれの担当に分かれ、検査室・操作室の環境チェックとその記録撮影を行いました。



コンテナ型 CT“Philips Ctainer”での技術研修です。外観から分かるように、トラックの荷台のようなコンテナの中に入っています。COVID-19 感染拡大の際に寄贈されたそうです。



X線防護用エプロンの清拭の手順を専門家から学び、ラオス現地の方と一緒に実践しました。見た目は新品同様のものが多かったのですが、大事なのは中の状態です。X線透視撮影装置やCT撮影装置を用いて品質チェックをしてみました。見た目では判断できない劣化や破損が確認され、管理の重要性を改めて実感していました。



せっかく異国に来たのであれば、その国の文化風習を知ること大切です。こちらは、宿泊したホテルのすぐ近くのお寺ですが、通りかかったのがちょうど、日の暮れる16~18時頃に行われる「夕勤行」の真っただ中でした。

「翌日以降も研修が上手くいきますように」と祈ってくれていたのでしょうか？



2024.08 ラオス渡航記録

ラオスの皆さんにご招待いただき、メコン川を眺めながら夕食をとりました。ラオス語で数を数えられるようになりました。多言語でのコミュニケーションの楽しさを実感しているようでした。



活動3日目

通称「日本友好病院」にて、実は、この病院の CT 撮影装置は、約 2 年間故障したままになっていました。そういった光景はラオス国内の公的医療機関では珍しいことではありません。写真右は、検査室内に置かれた段ボール箱の中です。覗いてみると、検査着の端切れのようなものが積み重なっていました。雑巾などとして再利用？しているようです。



徐々にラオスの食文化にも慣れてきて楽しそうにしていますが、この麺の中に潜む秘密の食材にこの後一同驚愕。その後、全員箸が止まってしまいました…。



活動4日目

ビエンチャンの中心部にあり、ラオス健康科学大学の真横に位置するマホソット病院での研修でしたが、連日、朝から晩までの活動が続いていたため、学生の皆さんには、午前中、ホテルで休憩してもらい、ランチから合流しました。活動初日のセミナーでお弁当を準備してもらったレストランです。現地の方におススメを聞いて注文していました。

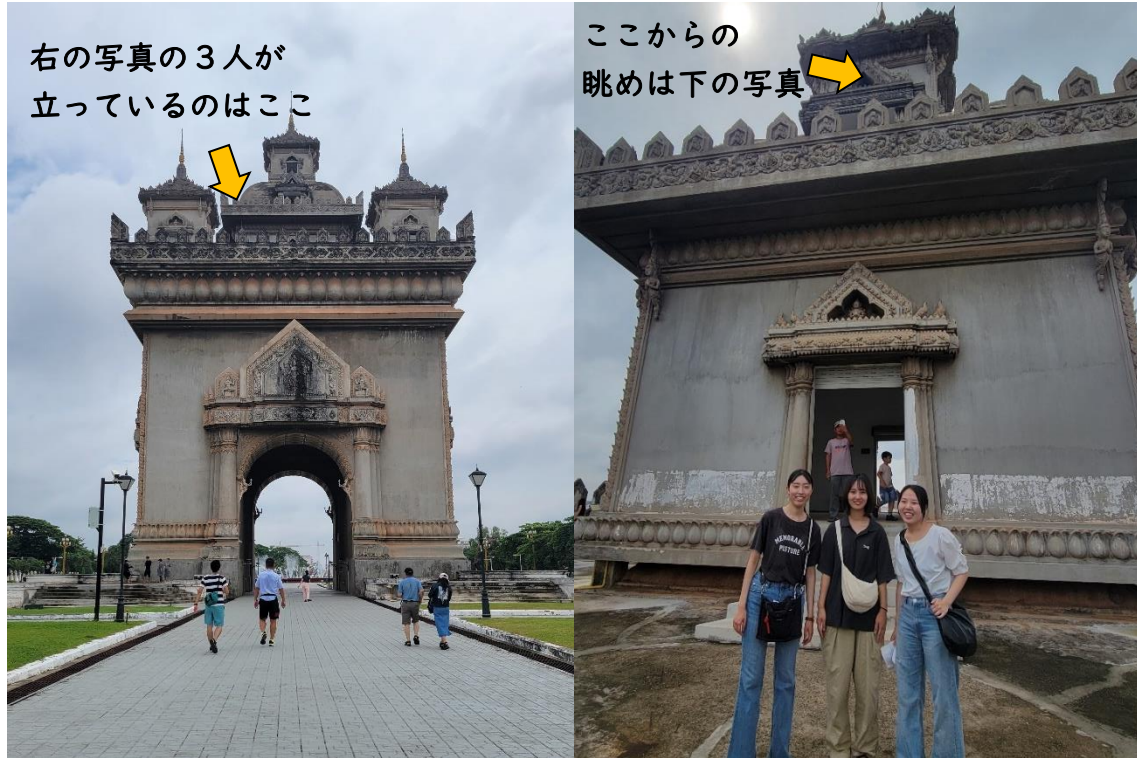


午後からは、これまでの活動を思い出しながら、現地の診療放射線技師、ラオス活動メンバー全員でX線防護エプロンの清拭を行いました。



待ちわびた休日

一週間の活動を終え、土日を迎えました。休日の朝活ということで、ホテルから約一時間、ラオスの凱旋門“パトゥーサイ”を目指してお散歩しました。ラオスはフランスの植民地だったため、その歴史が色濃く残っています。ひたすら歩き続けてようやく登場に到達。写真の笑顔にも少し疲れが…。



朝のお散歩がちょっとハードだったので、近くのローカルマーケットを散策して、帰りはトゥクトゥクに乗ってホテルへ戻りました。

果たして乗り心地はどうだったのでしょうか？



夕食は、軒先の“ド”ローカルレストランで。

パクチーを克服できた人とそうではない人、青唐辛子の罫にはまった人、食べ物に関してはここでは書ききれない位ほどのエピソードがいっぱいです。



活動5日目（最終日）

警察病院の一般 X 線撮影室がエアコンから大量に水滴が落ち、装置とその周りが水浸しになっていました。



全員笑顔で帰国の途につきました。集団の中で役割を見つけ、率先して行動している姿がとても頼もしかったです。この経験を是非次に繋げて欲しいと思います。

